

6879 **フォトロン**

塚田 真人 (ツカダ マコト)

株式会社フォトロン社長

新製品の投入・新規市場の開拓で、販路拡大を図る

◆会社概要と企業理念

当社は、1968年7月10日に大沢商会の子会社大沢研究所として創業した。資本金は5億460万円、発行済株式数は754万7,550株、株主数は969名である。現在、連結子会社として、LSI事業を担当するアイチップス・テクノロジー(株)、医療用映像を扱うフォトロン メディカル イメージング(株)、海外で高速度デジタルビデオカメラの販売を担当するPHOTRON USA, Inc.とPHOTRON EUROPE Ltd.がある。ほかに、連結には入れてないが、ベトナムのホーチミン市に技術開発を担当するPHOTRON VIETNAM TECHNICAL CENTER Ltd.がある。従業員数は、単体で171名、連結で214名である。

企業理念は、2003年度に設定した。〈ポリシー〉顧客満足による信頼の創造、〈ミッション〉お客様の業務効率向上に貢献、〈ビジョン〉画像にこだわる会社、という企業理念をもって運営している。お客様の業務効率向上に貢献するというミッションを実現する際の心構え、達成するための精神として、顧客満足による信頼の創造というポリシーを従業員に徹底、浸透させている。そして、この理念の実践が、従業員の成長および業績の向上につながっていくと考えている。

◆2010年3月期決算概況(連結)

2010年3月期の業績は、売上高66億62百万円(前期比2.8%減)、営業利益6億8百万円(同15.4%減)、経常利益6億15百万円(同34.0%減)、当期純利益3億61百万円(同37.9%減)となった。

減収減益の理由は、世界的な企業業績の悪化による研究開発投資の縮小の影響を受けたことである。しかし、民間の需要が乏しい中で、官公庁、学術関係という需要を積極的に取り込む戦略を展開した。

事業セグメントの内容は、大きく分けると映像情報機器事業とLSI開発事業であり、映像情報機器事業には、高速度デジタルビデオカメラの事業を中心としたイメージング システム、CAD、教育映像システムで構成されるソリューション システム、プロ用の映像、医療用の映像を扱うプロフェッショナル システムがある。LSI開発事業は、連結子会社のアイチップス・テクノロジー(株)の担当で、映像処理用の汎用 LSI の開発・製造・販売という事業を行っている。

セグメント別売上高・営業利益は、イメージング システムが、売上高34億75百万円、営業利益5億57百万円、ソリューション システムが、売上高8億78百万円、営業損失1億20百万円、プロフェッショナル システムが、売上高12億63百万円、営業利益1億16百万円である。また、LSI開発事業は、売上高10億44百万円、営業利益54百万円である。前期との比較では、イメージング システムの落ち込みをその他の事業がカバーするような格好となり、全体としては、売上高2.8%減、営業利益15.4%減にとどめることができた。

研究開発費は、映像情報機器事業が8億34百万円で、これは売上高比率14.9%、前期に比べるとその比率は1.4ポイント低下している。一方、LSI開発事業は2億82百万円で、これは同27.0%、前期と同水準である。競争力を維持するため、今年度も引き続き8億50百万円、3億円を予定している。

次に各セグメントの事業内容と業績である。まずイメージング システムであるが、これが現在、連結売上高の半分以上を占め、売上のほとんどが高速度デジタルビデオカメラである。企業のほか、官公庁、大学などの幅広い研究分野で、瞬間的な現象を可視化し、解析・計測するという用途に使われている。現在最高のスペックのものは、1秒間に1,302,000コマという超高速撮影が可能である。自動車の衝突安全試験に使われるカメラは、車内の狭い場所にも設置できるように小型化し、かつ、衝突時のショックにも耐えられる対 G 性能も備えている。イメージングシステムの当期の業績は、売上高 34 億 75 百万円(前期比 13.5%減)、営業利益 5 億 57 百万円(同 35.5%減)である。地域別に見ると、日本が 13 億 14 百万円(売上比率 37.8%)、北米が 7 億 87 百万円(同 22.7%)、欧州が 10 億 17 百万円(同 29.3%)、その他アジア地区が 3 億 55 百万円(同 10.2%)となっている。国内、海外とも、官公庁や学術系の研究機関に重点を置いた販売戦略を展開したが、民間部門の落ち込みをカバーするまでには至らなかった。また、官公庁なども入札における価格競争が非常に厳しくなり、落札しても利益率が低下するケースも増加している。今後も官公庁系研究開発機関などに重点を置いた販売展開を実施するとともに、民間需要もかなり回復してきているので、販売代理店と協力しながら、市場ニーズの情報収集などマーケティングや製品開発の強化を図っていく。

ソリューション システムは CAD 関連と教育映像関連で構成される。CAD 関連製品では、主力製品である図脳 RAPID シリーズのバージョンアップ製品、図脳 RAPID16 を 1 月に発売した。競合他社製品からのシェア奪還を目指す充実した内容の製品である。また CAD 製品だけでなくファイリングシステムなども取りそろえ、業務効率化に役立つ提案を行っている。教育映像関連分野では、文教市場を中心にコミュニケーションツールを提供している。講義の収録システムに加え、内田洋行(株)と共同開発した教育学習支援システムが、本格的に売上に寄与するようになってきている。ソリューション システムの当期の業績は、売上高 8 億 78 百万円(前期比 12.4%増)、営業損失 1 億 20 百万円である。CAD 関連は、1 月に図脳 RAPID16 を投入したが、第 3 四半期までは、そのための開発・マーケティングなどの事前準備を念入りに行った。そのためコスト先行となり、売上高、営業利益への本格的な寄与は今年度に持ち越しとなった。足元までの状況は計画を上回る進捗状況が続いている。バージョンアップ製品により当社の顧客資産を再構築すること、CAD 技術を応用した新製品により新規市場の開拓を行うなど、CAD 事業の再生に向けた販売活動を積極的に行っている。教育映像関連では、主力製品である講義記録ツールに加え、内田洋行(株)との共同開発製品など文教市場における案件は増加している。政権交代による補正予算の執行時期の問題もあり、納品が第 4 四半期に集中したが順調に市場に浸透してきている。今期通期では黒字化を達成できる予定である。

プロフェッショナル システムであるが、プロ映像システムの分野は、放送局、ポストプロダクションなどの映像関連のプロフェッショナルが取り扱う機器を、主に海外から輸入販売している。主な製品として、EVS 社(ベルギー)のディスクレコーダー、これは各局のスポーツ中継などで使われている。次に映画や CM の制作で使う Cintel 社(英国)のテレシネという機材や Black Magic Design 社(豪州)のカラーコレクターである。これらを放送局、ポストプロダクションに提供している。また、イメージング システムの高速度デジタルビデオカメラを、テレビ放送用にアレンジした機種があり、これも販売・レンタルなどで事業を開始しており、スポーツ、バラエティ番組などで幅広くテレビ放送でも活躍している。医療画像システムは、2007 年 8 月に分社化したフォトロン メディカル イメージング(株)が担当している。循環器分野に特化した、動画レントゲン映像の表示・解析・保存などに使われるシステムである。プロフェッショナル システムの当期の業績は、売上高 12 億 63 百万円(前期比 23.4%増)、営業利益は 1 億 16 百万円、これは前期比約 3.7 倍である。プロ映像システム分野は、テレビ局等の設備投資は厳しい状態が続いているが、バンクーバーオリンピックに関連したテレビ局向けのディスクレコーダーや、ポストプロダクション向けのカラーコレクターなどの大型商談が成約できたことなどにより、前年を上回る結果となった。また自社製品である高速度デジタルビデオカメラをテレビ放送向けに展開することや、取扱商品を増やすことなど、業績安定化に向けた取組みを行っている。また医療分野は、国内では、引き続き装置メーカーとの協業関係を強化し、販路の確保に注力

している。重点ターゲットとしている国立大学系の病院への納入も果たし、市場での知名度の向上が図られた。また、海外において OEM 供給の契約を締結し、今後の海外での拡販に向けた足がかりとなることを期待している。

最後に LSI 開発である。この事業を担当しているアイチップス・テクノロジー(株)は、もともと住友金属工業の LSI 開発部門であったものを、2000 年 5 月に当社が子会社化した。画像・映像関連に特化した LSI の開発・販売を行っている。フラットパネルディスプレイ、プロジェクターなどのデジタル電気製品の普及に伴い、解像度変換の LSI の販売が着実に伸びている。セットメーカーによる LSI の内製化やシリコンサイクルによる影響を受けた時期もあったが、現在では、ハイエンド製品向けの高付加価値の映像処理関連 LSI に重点を置いた開発・販売を行っている。LSI 開発事業の当期の業績は、売上高 10 億 44 百万円(前期比 1.5%増)、営業利益 54 百万円(同 16.0%増)である。セットメーカーによる在庫調整は上半期にほぼ一巡し、下半期からは増産の動きが広がり始めた。ただ従来水準に比較すると、まだ十分に回復したという状況には至っていない。

◆2011 年 3 月期業績予想(連結)

2011 年 3 月期業績は、売上高 70 億円、営業利益 6 億 30 百万円、経常利益 6 億 40 百万円、当期純利益 3 億 80 百万円の見込である。新興国の需要拡大など回復傾向もみられるが、企業収益拡大に伴う研究開発投資の動向については、まだまだ不透明な状況が続くのではないかと考えている。新製品の投入や新規市場の開拓など販路拡大には引き続き注力していく。

◆質 疑 応 答◆

主力のイメージング システムは、研究開発が中心であるが、この分野はそれほど需要が拡大しないのではないかと。市場が大きくなるような製品があれば教えてほしい。

高速度デジタルビデオカメラ関係は、ご指摘のように、性能の高い領域の需要には限りがあり、また技術的にも限界に近い。もう 1 つ、2 つハイスペックの製品投入を予定しているが、次の対策としては、中程度のスペックの製品を広く世の中に広めるということで、そのきっかけとなるような製品を予定している。

(平成 22 年 5 月 20 日・東京)